

広告 企画・制作:読売新聞社ビジネス局

南福岡脳神経外科病院竣工特集

脳から全身の健康を

南福岡脳神経外科病院

7月1日開業



福岡市南区日佐、福岡脳神経外科病院の近隣に7月1日、南福岡脳神経外科病院(矢野茂敏院長)が開業する。脳卒中の救急患者の受け入れが増えた福岡脳神経外科病院から脳腫瘍機能外科部門を機能分離し、新たに、近くの白浜病院の内科リハビリ部門と協業し新病院をつくることで、患者一人ひとりに寄り添った質の高い医療の提供を目指す。



【撮影 伊東浩】

超急性期医療と機能分離

南福岡脳神経外科病院は5階建て。1階はエントランスと駐車場、2階は外来・診療・手術、3、4階は病棟などを配置。全79床のうち、急性期病床40床、回復期病床39床。診療科目は脳神経外科、内科、リハビリテーション科など。医師やスタッフは福岡脳神経外科病院や白浜病院の職員のほか、新たに新規採用も積極展開。職員数は100名を超える。



広々としたロビーと総合受付

必要とする医療やケアが異なることから、機能分離が検討されてきた。元々、高血圧や糖尿病、誤嚥性肺炎など脳と関連が深い病気が多く、内科を含めた治療を確実にするため、白浜病院の内科と合わせることでひとつになった新病院をつくることになった。

脳と神経を傷つけない高難度手術

福岡脳神経外科病院は2017年4月、脳神経外科に特化した福岡県内でも珍しい病院として開業。脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血といった脳卒中患者の治療対応を365日24時間できることから受診患者が増加し、手術も年間1000件を超えるようになった。

南福岡脳神経外科病院は、①体に負担が少ない治療②地域の健康管理③治療から回復期リハビリまで一貫した特徴がある。脳神経外科部門には「下垂

体・内分泌センター」と「低侵襲脳腫瘍・機能外科センター」を開設する。「下垂体・内分泌センター」では矢野院長の専門分野である間脳下垂体疾患の診断と治療、垂体疾患の診断と治療、機能外科センターでは脳腫瘍全般や、目の周りや頬・奥歯にズキとした痛みを繰り返す三叉神経痛、顔面けいれん、認知症などの脳機能回復を目指す手術を行う。

内科、リハビリ部門を充実

内科部門ではこれまで白浜病院が担ってきた地域住民の健康管理を今後も継続。高血圧や糖尿病、誤嚥性肺炎は脳の機能とも密接に関連しており、常駐する脳外科医と内科医が協力して脳機能と全身機能を関連付けた専門的な診察、治療ができるようにする。



CT検査室(左)とOPE室(右)の様子



リハビリ部門では理学療法士、作業療法士に加えて言語聴覚士の充実を図り、高次脳機能障害、摂食嚥下障害の回復に力を入れていく。入院後は早期から積極的なリハビリテーションを行い、患者の自宅や自宅の近くの施設に早く帰れるよう、地域の医療機関や訪問看護ステーションと連携を深める。また、「ユマニチュード」というコミュニケーション技法を職員全員が身に付け、入院、外来のすべてにわたって一人ひとりに寄り添った質の高い医療を提供することで患者の回復を全力で支える。

熊本大学脳神経外科で18年間脳腫瘍の専門治療を行い、5年前から福岡脳神経外科病院で最新の機器を用いた低侵襲(体に優しい)脳神経外科手術を行って来ました。

新病院の理念は「人に優しい医療」の実践です。手術では傷の大きさや痛みの軽減だけではなく、脳と神経に障害の起さない優しい手術を心がけます。看護部は患者さんの訴えによく耳を傾け、痛みや苦しみを少なくする医療、リハビリ部は身体だけでなく心の回復にも寄り添って治療します。外来窓口などの部門は訪れる方に心地よい気持ちになっていただける接遇とお待たせしない確実な業務を行います。

働くすべての人もコミュニケーションを円滑にして風通しのいい職場環境をつくっていきます。患者さんのご家族や支援施設の方々に対して、入院に際する連携や退院後の支援が円滑に行われるようにサポートする体制を取り、「関わって良かった」と思っていたら病院になるよう努力します。

ごあいさつ



医療法人重喜会 南福岡脳神経外科病院 病院長 矢野 茂敏氏

Table of construction and design services including Shiga Design, Mirai Construction, and various subcontractors like Hokkei Industry and Yamamoto Equipment Industry.

南福岡脳神経外科病院の開院を心より喜び申し上げます